

刊夕 日七十月三

常磐毎日新聞

定価 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
 廣告料 五銭以上 一頁一日五銭
 日曜祭日の日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日新聞社

新入學兒童の取扱方

千葉右近

〔四〕

機嫌よく

入學の朝、この時こそ最も愉快に喜びに満ち、そして登校する様にせねばならない。一つ二つの手落ちがあつても小言など言つてはならない。

大抵のことは大目に見て、大いに元氣づけ勇躍出征する軍人の如く一家歡呼の中に送り出すべきである。「やれハンカチを持つたか」とか「やれ靴の紐の結び方がわるい」とか小言ばかり言つて無禮そうした母の細い心盡しは教育とし、嬉しいことに相違ないのであるが小言がましく叱責的に言はれると母の言葉とは言ひ子供ながらも不快である。子供が何かの叱責を母からうけて涙と共に門を出る様なことのない様々も注意せねばならぬ。涙で乾いた愛嬌な兒童の顔には教師もげつそりするものである。

(ロ) 入學式には是非母親が附添つて、母親が附添つて受持ちの教師に會つて子供の生活に就いて種々相談しておくことを要する。

教師が子供の話かける話しの糸口は家庭内の模様などを題材に用ふるから「先生は自分の家のことをよく知つてゐる」と思ひ込み教師を非常に懐しく思ふものである。

何かにつけ、教師と保護者とはなるべく話合ふ機会を造ることは甚だ有益なことである。

(ハ) 入學を祝ふこと

端午の節句、雛 節句が子供の將來を思ふ親心の現れとして家庭教育上見逃し得ない行事であるやうに、入學の祝ひも是非やうたものである。

母親の心盡しの食卓の品々も神佛にも供へて親子共に成人を祈り一家舉つて入學兒童の前途を祝福することは意義深いものである。

(ニ) 入學當時注意すべき事項

一日毎に子供は學校に慣れて行き親もやれ／＼と思ふ様になつて来る。しかし油断は大敵である。うつかりすると取返し得ない結果を生ずる。左に注意すべき二三の点を述べて見よう。

(イ) 子供相應に仕事を與へよう

自分のことは自分で爲さ

しむるばかりでなく、家庭に於て子供相應の仕事を担当せしむることは庭家一員であることと判然と自覚させる一つの方然で極めて重要なことであるがこれも入學の前から始むるのがよい。勿論はじめは親切な指導の下に行はせ兒童のした仕事についてはこれを認めてやらねばならぬ。

(ロ) よく眠る習慣をつけよう

「犯罪の多くは犯人が子供時代に睡眠不足たつたことが重大な原因をもつてゐる」と外國のある醫者が説いてゐるが、入學當時の子供にとつては一は生活の變化より、一は發育盛りであると言ふ点より甚しき身心の疲労を來たすに相違ない。この疲労は睡眠によつてのみ回復される。睡眠不足の影響は直接現はれないとしても決してそのまゝには濟まないものである。

睡眠は熟睡しなければならぬ。レコードをかけたラヂオをかけたこと、は深い安眠を妨げる。故に寢室は暗く静寂を要する。早寝早起の習慣は訓練によつて出来る。入學の當時は大體七時乃至八時に寝ねしめ六時頃起床する様に慣づけ度いと思ふ。又寝る時の姿勢に注意せねばならぬ。

1936 御入學・御進學

をなされ 御愛兒様へ!!
 小店にては聊か右御祝と日頃の御愛顧に酬ゆる爲左記の通り奉仕特賣致します。記念として何卒御用命の程伏して御願ひ申上ます。

旅行と實用とを兼ねた
責任保証附 腕時計
 定價 金七圓五錢ヨリ
 (ゴム又は皮バンド附)

萬年筆
 定價 八十錢ヨリ

ビクター・コロネビア
 ボリドール

特約店 **金光堂時計店**
 平町五丁目

第一學年 臺百名 出願期日 四月四日まで
 第二學年 若干名 新學期 四月四日より
 受験科生 若干名

創立 卅年
生徒募集

平町城山 **磐城青年學校**
 學費低廉、獎學金の給與、基礎益々鞏固、内容年と共に充實、鐵道其他受験講座特設

開院

外科一般特ニ内臟外科
 皮微科 疝門病科

北川外科
 レントゲン科 物理療法科

平町新川町(諸橋醫院跡)
 醫學博士 北川 芳夫
 醫學士 奥 義弘
 イツデモ入院出來マス 電話 四六四番

吸入用 **酸素** 純度 99%
 モノサシ
 体温計

度量衡
 ハカリ
 器量計
 寒暖計

關内藥局
 電話 四〇番

寫真材料一式販賣致シマス

成田山大護摩

修行團體募集

一、四月三日(神武天皇祭)午前七時三十分平發
 一、會費 金八圓五十錢也
 但、片道汽車賃、車中辨當及茶菓子代、成田宿泊料及茶代祝儀、大護摩修行諸費、箱札料一等坊料及席上諸祝儀

外ニ宗吾靈堂御護摩料共
 但成田、宗吾開電車賃、御自辨ノ事
 尙本年、特ニ二十五周年記念品ヲ呈ス
 一、申込期間 三月二十七日迄會費御持參
 御申込ノコト

大新榮講
 講元 井上貞治郎
 平町五丁目(電話六六番)

古レコードと蓄音器買入

皆様の御家庭にて既に御不用となつたものでも何處の店よりも高價に買ひます

平町三丁目
天地堂
 電話 五八九番

平小鐵道の

線り延べを懸念

小名濱から委員が上京

十年度から建設される平小鐵道は十年度も除す處旬日に切迫したに拘らず未だ目録が付かず地方民は少なからず憂慮し、むた矢先二、二六事件が惹起して廣田内閣の出現となつたため萬一着手年度が繰り延べられる様な事があつては大變と小名濱町では近く委員が上京して鐵道當局の意向をたしかめんとつた

新講堂に

晴れの卒業式

優等其他の氏名

櫻ヶ丘學園に螢雪の功なりあす午前十時から晴れの卒業證書授與式を木の香新らしい新講堂に擧げる優等生其他及び卒業生左の如くである

- △優等生 阿部良枝 梶原巧子 熊安子 白土わか 鈴木きぬ子 唯野秀子 筒井久子 根本久子 藤田順子 若松きみ
- △四ヶ年級長勳績 阿部良枝 白土わか 唯野秀子 根本久子
- △四ヶ年皆勤 青山雅子 石井みさ 惠原猪止子 小野とく 小野はる 大越あけ子 大平チウ 片寄みよ 川島とめ 菅野定子 熊安子 近藤久 白土豊子 唯野秀子 田
- 村英子 戸田美枝子 永山とる子 西川一子 布川よし子 野口佐多子 長谷川公子 馬日つ子 門馬住江 山崎敏子 吉田千恵子 若松きみ 大平かつえ
- △校友會功勞 一の瀬正子 瓜生すみ 小野はる 大平久子 梶原巧子 片寄みよ 金成信子 菊地舜 木田瑞子 熊安子 佐久間千恵子 篠山和子 唯野秀子 依とめ子 布川よし子 橋本きみ 長谷澄子 久田しな 馬日はへ子 村上きよ子 山崎さよ 遊佐ふちえ 吉田千恵子 若松きみ
- △卒業生 愛川光子 青木好子 青山雅子 網掛ヤエ子 赤塚サダ子 赤津

- キヌ子 鈴木君枝 鈴木静枝 鈴木タカ 鈴木玉枝 鈴木ハル 鈴木政子 鈴木ミヨ子 鈴木素子 鈴木泰子 鈴木ヨシ 須藤俊子 清野キヨ子 關昌子 關村祐子 高木澄江 高木千代世 高久光子 高橋知子 瀧光子 瀧みよ 竹内富美子 竹原リツ 唯野秀子 立荒伴田中フミ 田邊美那子 谷川マサ子 依とめ子 田中英子 堤和子 堤孝子 筒井久子 鶴田由紀子 戸田美枝子 豊田州枝 豊田ミトリ 鳥海スミ子 中川らよ 長瀬春子 永山てる子 永井シツ 直井ユキ 新妻サタ子 新妻操 新妻ヨシ子 西山一子 布川ヨシ子 根本久子 根本ミチ子 野木鋭子 野木知代子 野口佐多子 野口ユキ 野原さだ恵 萩原次子 箱崎綾子 橋本イヅ子 橋本キミ 長谷川公子 長谷山輝 長谷川瀧子 晴山初枝 久田シナ 平野ヨシエ 藤澤静江 藤田順子 堀川喜美子 馬ヒミキ 松澤タイ 松本美代 馬目キヌ 馬目ハツ子 水竹美代 水津榮子 峯口定子 峯房子 宮内美智 宗像英子 村上きよ 森田 門馬シメ 門馬住江 矢部貞子 山内敏子 山口ヨシ 山崎歌子 山崎キヨ 山崎セツ子 山崎敏子 遊佐フヂ子 湯山光子 吉田ネネ子 吉田喜美子 吉田キ

花嫁學の

第一課に

卒業後精進 別稿婦女卒業生の卒業後の志望は左の如く大部分が家庭に留り花嫁學第一課に精進する譯である

- 進める譯である
- 東京女師二 師範二部
- 二一 音楽學校一 日本女子大二 日本女師高等學園一 實踐女子專門一 川村女學園三 共立女子專門三 專門學校一 帝國醫藥專一 東京藥專一 聖路加女專一 東京家政學院三 大妻技藝學校二 東京文化學園二 就職希望一三 平驛員一 日本赤十字看護婦二 日立製作所一 保姆一 未定四家事一 一九 計一八六名

滿洲から支那に

進出する水産品

小名濱町の生産額激増

躍進小名濱町の昨年中に於ける水産加工品は總額九十七萬圓に達し前年生産額に比し四十五萬圓の大激増を示して居るが製品は遠く滿洲・支那に迄進出した主な加工品は

- 圓、鹽乾鰯九萬二千八百
- 圓、鹽鰯十六萬五千圓、鰹節三萬四千二百圓、海産三萬二千四百六十八圓、煮干三萬六千九百七圓、鰯ミール二萬五千圓、鰹油一萬四千七百圓、鰹節一萬三千六百圓、鰹生利節八千九百五十圓

災害地小學校に

臨時補助を割當

昭和十年度郡内災害地尋常小學校臨時國庫補助金の割當は二千六百圓で各村別は左の如く十六日決定した

- △上遠野村三六九△入遠野村四〇七△田入村組合一村五七一△水戸村二三
- 九△箕輪村一六九△澤渡村四九△三阪村三九三

分教場に

昇格補助

郡内避村には教育費の關係から分教場以下の家庭學校が現存し、居る處から縣では補助金を支出して家庭學

林野保護

入選標語

山崎教諭審査

石城野保護組合は愛林思想普及宣傳の爲管内小學校兒童から宣傳標語を募集昨十六日磐中山崎官教諭が應募作品百二十三點に就いて審査の結果左記の如く入賞した

- △等五(一)等 護れ森林火事出さな、永井見玉甲子 夫(二)等 神谷須藤喜好 箕輪柏原ハツ子(三)等 箕輪高萩清外二名 △等六(二)等 森林生やし、明るき村に、合戸増子よみ子(三)等 永井喜美子、箕輪小沼正三(三)等 永井阿部友吉、永井平山健吉外一名 △高一(二)等 山を愛して火を出さな、渡戸増子ハツ子、永井藁谷邦男(三)等 渡邊吉田四郎、永井柴原文善、神谷木村守江、△高二(一)等 増やせ森林防げ森林、神谷志賀誠(高一)には一等入賞なし

學務委員協議

學務委員會は十八日午後一時から同町會議室で學童修學旅行に關し協議する

花時の景観

平町の準備成る

花見に御座れの準備萬端

降る春雨にせかれて一決

ひと雨毎に春のいて櫻花の時期の近きを思はせるにせかれて平町は昨十六日午後一時より土木委員會を開き藝妓屋組合、和洋料理組合、酒類商組合並に消防組合、酒類商組合並に消防組合、その他の關係者を招き觀櫻客誘致歓迎その他準備を協議したが既報の如く各驛に立看板を掲示する外例年通り二日頃より松ヶ岡公園並に新川端に昨年より數多く花見提灯や雪洞を點彩することになつたが更に松ヶ岡池の端には照明燈を備へ付けて一層夜櫻の美觀を添へ全くの不夜場と化する由

平町青年團幹部會は昨十六日午後七時から住吉屋本店に開かれ縣社子會神社の神輿渡御を新川町分團に決定したが今年からの神輿渡御には青年團制服にて供奉することとなつた

新川町分團長

神輿渡御奉仕

今年からは制服で供奉

花見の

大団体

助川方面から 千五百名來る

別項「花の平」紹介に町當局その他の關係者と連絡をと

植木博士を

招き講演會

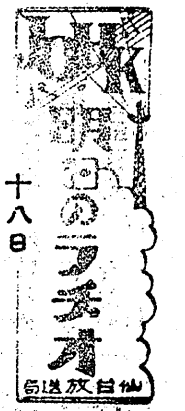
平郵便局は管内従業員思想善導を計る爲め來る廿三日午前十時から國學院大學教授文學博士植木直一郎氏を招んで講演會を開く

無一文の

悲しさは

無錢で乗車

勿來町大日本炭礦坑夫山形縣北村山郡三野村生れ高橋清左工門(三)は最近心臓病に罹り労働出來なくなつたため故郷に歸ることになり平驛まで來たが合憎無一文となつたので十四日驛員の目をかきめて無賃乗車して郡山に着いた處を發見され郡山署に留置されたが前記の事情判明したため署員の同情で福島までの旅費を支



今夜は晴明日も同様

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- お話し物の始まり(文字)
- 萩原井泉水
- 後六、二五 青年の時間
- 「六原青年道場に就て」出村不顯
- 後七、三〇 趣味講座「佛像の話」逸見梅榮
- 後八、三〇 ヴァイオリンと管絃樂 蜂谷龍子新響
- 後九、〇〇 ラヂオドラマ「時と戀愛」東寶劇團
- 後九、三〇 時報 ニュー・ス
- 明日の歴史 番組豫告

子供の危い獨り旅

飛降大怪俄

列車を間違ひた 龍門寺住職の息

飯野村字下荒川の龍門寺住職近藤徳勝氏長男政勝(三)君は去る十五日午後四時四十九分助川驛で平町の列車に乗らんと逆の上野行列車

お彼岸會議で

佛様のおつしやる事には

うまいと安いと

買物ならマスヤに限る

線香、小豆、砂糖其の他 手物雜貨なら何んじも

マスヤ雜貨店

蛭田利光

平町壯丁除隊 平町一丁目關原司君は九年一月電信第一聯隊入管後關東軍に乘つたので進行後慌て、飛降りホームに轉倒腰に打撲傷を負つた

明日の部

- 前七、〇〇 英語講座 牧
- 前七、三〇 朝の修養「三教指歸」吉祥眞雄
- 前九、〇〇 家庭メモ
- 前九、三〇 母の講座「家庭に於ける子供の指導」五中學校へ入學する者 高極太郎
- 前一一、〇〇 彼岸會法要「光明供錫杖之修」京都妙法寺より
- 後〇、〇五 御詠歌と三曲
- 川崎大師善信講々中 清
- 水良純他
- 後二、〇〇 婦人の時間
- 「野山咲く花を活ける」話一小島專甫
- 後五、三〇 爐邊物語「羽黒山の祭」鳥海宗晴
- 後六、〇〇 子供の時間
- 「螢の光」草子トモモ會
- 後七、三〇 講演「人生の彼岸」梅原眞隆
- 彼岸風景
- 後八、〇〇 春のたより
- 後八、二〇 擬音スケッチ「冬から春へ」市川喜美江
- 後八、四五 西國札所とてろく K K 文藝部編

政府米の

拂下決定

郡下五村に

本郡の十年度冷害救済村に割當てる政府米の申請は約三千俵に達したが平穀物検査所で調査結果左記五ヶ村に千五百二十三俵を一俵九圓二十三錢で拂下る事になつた、各村割當左の如くである

- 澤渡四六五俵 永戸四五
- 五俵 田八三二三 川前
- 二七〇 小川二〇

二毛作

實地指導

石城郡農會は昨年中の二毛作が天候不順、災ひされ成績不良だつたのに鑑み、本年は之が打開策を購じて成績を擧げることになり本十七日午前十時から平町團體事務所内二毛作實地指導地擔當者七名を招き大麥並に菜種に就き協議した

虎になる

暴れて檢束

錦村昭和人絹會社職工秋田縣雄勝郡山田村生小松三五郎(三)は十四日郷里へ所用で行く途中相馬郡浪江町に下車して飲酒泥酔した未暴れ廻り浪江署に檢束された

検事長の視察

和田宮城控訴院検事長並びに後藤福島地方検事正は十六日午前中巡視のため來平、夏井村如來寺、内郷村阿彌陀堂、入山炭礦等を視察した

瓦解の謎

悟道軒圓玉(作) 尾至陽(巻)



七四 無事に納まる

お花はお鷹匠の榊原新八と渥見十蔵を見て笑つてゐたが

花「まあ旦那聞いて下さいわたしと一緒に来た二人がお鷹を殺して鍋にして食べてしまつたんですよ」

二人はこれを知るとハツタと怒り

新「不埒なやつだ、上様のお拳にすがらお鷹を殺してそれを食すとは何んといふ無法者であらういよいよ勘辨ならぬ、二人を成敗してくれ、これへ連れて參れ」

花「そのお腹立は御尤もではございますが、あのお鷹を殺してそれを鍋で煮て食べるやうな亂暴な人たから飛んだことをいたしました、さア御制取くださいました、首をのばしておなたがたに斬られるやうな人ではありませぬよ、二人のいひますには、この事が表向になれば重々おとがめを受けるであらう、さうなれば軽くいつて八丈か三宅島へ送られ、潮風に吹かれて苦勞をする、重く行けば打首にもなるであらう、どうせ死ぬならば鷹匠二人をの世の道伴れにすると

んことだ、彼奴等はこゝへ斬り込むか」

花「お前さんがたを殺して腹を切つて死ぬといつてゐるんですよ、それですからこゝは穩かにしてくださいな、いけないの勘辨出来な

いの、オヤオヤ二人が来たよ」

と廊下へ顔を出した時に本多孫三郎に八百松はこの部屋に立つ

松「何うしたお花さん、まだ話はまともらねえか、手を引いてくんねえ、此奴等

は顔を見合せ

新「ウームそんなことを申して居るかえ」

花「あんな無法な人達とて

いんですよ」

これを聞いて渥見と榊原

は顔を見合せ

新「ウームそんなことを申して居るかえ」

花「あんな無法な人達とて

いんですよ」

これを聞いて渥見と榊原



こゝへ斬込むだらうと思ひますがね、そんなことがあつてはあなたかたにも御迷惑をかけ、またこゝの家も困りますから内済にしてくださいな、お花が急病で死んだといつて……」

新「どうもこれは怪しからうな」

と問はれ渥見十蔵が

十「ウム、こゝは内済にしがたがよろしからう、これ女貴様が男であればこの事はまかせぬが、女であるから勘辨いたし遣はす」

花「それは有難うございませう、ちよいと孫さん、こゝは無事に済んだよ」

孫「さうか、これ松斬り込むには及ばねえ、まづ穩便で済んだぞ」

松「そいつは残念だなあ、飛び込んで腕の續くだけ斬つて見やうと待つてゐたんだが、このまゝ引きさがるは返すも残念だ」

といつた。こゝはお花の機智に依つて波風なくおさまつた。そこでお鷹匠の渥見十蔵、榊原新八は支配頭の内山五兵衛のもとにおき

が急病にて死したと届けて出た。この一件を聞いて青木彌太郎はお花の機智を賞

し

彌「女にしておくは惜しいな、お鷹匠二人をがどしたところなどはこれ男も智慧のねえ奴には出来ねえことだ、これお花、俺は色氣を離れて貴様の面倒を見てやるぞ」

花「有難いわね、何卒殿様可愛がつておくんない、お前さんのためにはわたしもこの命を捨て、働きますよ」

彌「俺には大きな望みがある、その望みを果す時にはお前の命をもらうこともあらう、先づ、それまでは大事にして置け」

かういつてお花を愛し

た、お花は近頃奥山の水茶屋は若い女を雇ひ入れてそれに任せ、青木彌太郎の根岸の別荘に来て遊んでゐる。しかし二人の間には厭味な關係は微塵もない、彌太郎は吉原江戸町、了目の桐屋の娼妓賑とは深い馴染です、さういふ女があることとしてお花とは情事の關係はなかつた、青木がこの女を愛すは目的に用ひられるため、するとお花、利用する事が出来た。

お花は近頃奥山の水茶屋は若い女を雇ひ入れてそれに任せ、青木彌太郎の根岸の別荘に来て遊んでゐる。しかし二人の間には厭味な關係は微塵もない、彌太郎は吉原江戸町、了目の桐屋の娼妓賑とは深い馴染です、さういふ女があることとしてお花とは情事の關係はなかつた、青木がこの女を愛すは目的に用ひられるため、するとお花、利用する事が出来た。

夜間

胃腸病科

内科 皮膚科 性病科 花柳病科

専門

院醫 性病 胃腸 村松

(番七〇一町南町平)

療

お醤油は……ヤマフル

醤油味 贈り物

たひら 正宗 鯨節 食料品

金山崎合名会社

福島縣平町(電話) 山崎 興三郎

川治生命製糖代理店

生徒募集

文部大臣 認可 **藤田女學校**

一、願書受付 三月三十日まで

二、詳細ハ學則請求ノコト

平町田町(電話三二二八)

(一) 本科 五十名 (二) 裁縫専修科 百名

(三) 専攻科 三十名 (四) 師範科 二十名

(ハ) 本科裁縫専修科第二學年補欠若干名

和漆器と家具は 和久井屋

平町田町

電話三〇〇番

店主が店員	を連れて行	か	正	正	正
を連れて行	か	正	正	正	正
を連れて行	か	正	正	正	正
を連れて行	か	正	正	正	正
を連れて行	か	正	正	正	正
を連れて行	か	正	正	正	正

平・田町

レストサロン

電三五二番